

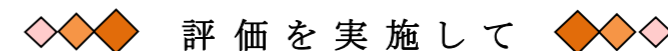
平成 29 年 6 月 8 日 第 6 号

〒180-0006

武蔵野市中町 1-34-3-409

代表取締役 林 暢介

編集者 松田 美幸



評価を実施して

滝乃川学園成人部 明田 義男

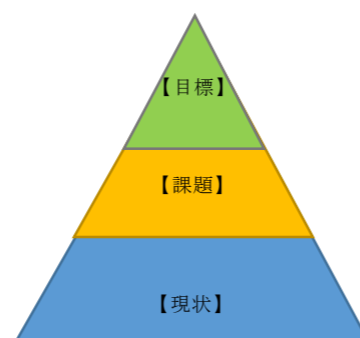
◆◆◆ 平成 29 年度の評価テーマとその手法 ◆◆◆

株式会社クリップ 代表取締役 林 暢介

クリップは「共に歩み、共に進む」の理念に基づいた評価を目指している。今年度は評価者が組織成熟度を念頭に置いた課題（スタート）や目標（ゴール）を設定することとし、設定した課題や目標の達成状況をチェックすることで新たな課題や目標の設定に繋がられるよう、「評価の PDCA をまわそう」をテーマとして、新たに取り組みます。

【現状】、【課題】、【目標】という情報のピラミッド

評価の PDCA をまわすための基本となる課題と目標を設定するため、評価者が意図を明確化し、かつお客様に評価者の意思が伝わるよう、今年度、評価者が記載するコメントを【現状】、【課題】、【目標】の 3 つに分類します。【現状】ではお客様の運営状況、【課題】では現状を踏まえた改善すべき課題を設定、【目標】では課題を解決することで見えて来る、また新たな経営レベルに到達するための目標に分類し、評価者が記載するコメントの主旨を明確化します。



今年度の 3 つの評価プラン

今年度は【現状】、【課題】、【目標】という分かりやすい 3 つの情報分類のもと、以下の 3 通りの評価プランとします。お客様の現状を踏まえ、3 つのプランの中からご提案させていただきます。

プラン名	内容
現状型プラン	現在のお客様の状況から課題を設定するプラン、新規のお客様向けです。
課題型プラン	過去と現在のお客様の状況を照らし合わせて課題を設定するプラン、リピーターのお客様向けです。
目標型プラン	過去と現在のお客様の状況を照らし合わせて目標を設定するプラン、組織成熟度を上げたいお客様向けです。

今年度もさらに一歩進んだ評価のため、未知数の世界に向け邁進する

株式会社クリップをどうぞ宜しくお願い致します。



私が「クリップ」、とりわけ林さんと関わってかれこれ 10 年になるかもしれません。もちろん評価を通じての関わりですが、林さんの人柄なのか、スタッフに対するある意味厳しさを含む期待を込めた声かけに、ユニークさと何とも言えない魅力を感じてきました。私にとってこの 10 年は決して平坦な歩みではありませんでした。滝乃川学園で利用者の権利を侵す出来事があり、そこから今に至る道のりを最も冷静に見届けてくれたのが「クリップ」であり、林さんであったと思っています。

昨年、評価を依頼する際、林さんより新たに組織の成熟度を評価に加えるというお話をいただきました。かねてより「やり方」のみで解決をはかろうとする課題解決方法にうんざりしていた私にとって、「あり方」に着目した評価を提案いただけたことは、追い風であり勇気が湧いてくる出来事でした。

組織の成熟度とは、言い換えれば、組織の体質、風土、文化の事です。一個の人間に例えるなら「人格」と言ってもいいかもしれません。すぐれた「人格」は一朝一夕にできるものではありません。逆境や風雪に耐え、他者の豊かさを願って、自らを磨いてこそ、できていくものでしょう。組織の風土や体質を変えていくことも同様です。

思いだけで良い支援ができるとは限りません。しかし、思いがなければ良い支援は絶対にできません。良い支援とは、上手な支援でも、理にかなった支援でもなく、相手に対する願いがあり、そのことに真摯に向き合う姿勢を持った支援です。良い支援の、「良い」の中には、自覚、意思、主観を持って自らに挑戦する勇気を含んでいます。つまり、成熟した組織とは、自律した人が、「良い」にこだわり、結果として「良さ」のバリエーションが生まれていく組織の事だと思います。

「クリップ」が評価の中に成熟度を取り入れたということは、客観性を基本とする評価の中に、明確に意思のある主観というベクトルを持ったことだと思います。成熟の度合いを増した組織とはどんな形になるのでしょうか。今後も評価機関である「クリップ」と若干の緊張感を持って未来への対話の場を楽しみにしています。

◆◆◆ 平成 28 年度 オリジナル評価実施事業所満足度調査結果 ◆◆◆

【今回の評価結果に対する満足度を教えてください】

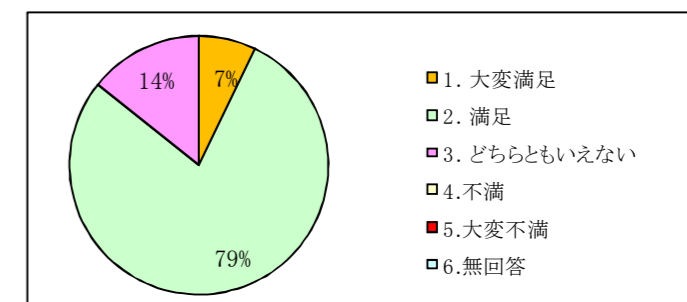
14 名 (10 事業所) よりご回答を頂きました。
大変満足 7% (1 名)、満足 79% (11 名)、
どちらともいえない 14% (2 名)。

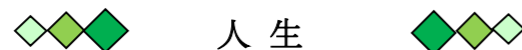
13 件のご意見を頂きました。

満足と答えた参考意見として、「ニーズに応じて変わっているところがクリップさんらしくていいと思います。」

との意見を頂きました。

どちらともいえないでは「事業所全体としての評価をもう少し頂けたらと思いました。」との意見を頂きました。





人生

評価者 猪居 武

春たけた頃の色香残る母の日も過ぎ、衣替えした誰かれの後ろ姿に父の日を迎える初夏の候となりました。玄関脇のコナラの木の落花も終わり、庭では乙女りんごの実が僅かに膨らんでいます。

さて、私の生き方、考え方、感受性としては、これまでゆるやかな変化に沿ったおそらくは進化的は方向を好みました。最近では身の回りの自然とそのなりゆきに不思議さを感じ取るように心がけています。

大正から昭和に変わった時点で私は生をうけてから数十年、干支が7回転しました。その頃は義務教育が小学校六年卒業までという時代でしたが、小学校入学の年に室戸台風があり、家並みの瓦が木の葉のように空を舞っていました。日露戦争戦勝記念日の毎年の三月十日には在郷軍人の父兄の話がありました、それは生真面目な話で、勇ましいばかりの話ではありませんでした。また文部省推薦映画としてにぎやかで華やかなアメリカ映画も楽しみました。府立中学二年生の時に大戦・大東亜戦争がはじまり、小銃、擲弾筒などの操作訓練が始まりましたが、一方では友人たちと一緒に羽を伸ばして和洋の小説や芝居、それに音楽にも通じるようになりました。誰もが人並みの一般教養をつけていたので、この頃の新聞がいうような「教育勅語」で人格が変性したことはありません。その後、敗戦の直前には今度は戦略爆撃の火災のなかで瓦が空を飛ぶのを再び見ました。それから国が自主独立性を失った六年間の被占領下の時期はいうなれば実数と虚数が混じった複素数の世界なので、私はその頃からの価値観には未だ賛同できません。

そんな中でも私はともかく現状からの演繹的变化を好みまして、そのせいか旧教育制度の六五三三制度で大学を卒業したあとも大学に居残り、学位取得後に留学生試験を受けて米国留学も済ませ、ともかくそれらしく、つまり化学の研究者らしくなった時はすでに二十歳代も終わりに近づいていました。

その頃、ある企業の役員から「高いところに立って世界を見渡し、科学の先端の白波が立っているところを見極めるように」とのお誘いがあり、その企業に移りました。多くの企業外の著名な先生方との共同研究があり、私や仲間がともども光って見えた時期でした。しかしその後は公害が顕在化して、冬の時代になりました。内外から「社会の役に立ち、会社の利益にもなる研究をやれ」との難題が来ましたがそんなものは直ぐにはできません。漸く農林省OBと議論を重ねて「植物の生長に合わせて無駄なく栄養分が供給できる肥料」という一見したところ応用研究に見える基礎研究を始めました。研究開始から試験生産まで十二年もかかっています。園芸好きの方はコーティング肥料という製品をご存じかもしれません。

似たようなことですが、文部科学省の工学系優先・文系軽視の方針には危ういものを感じます。今年2017年の英国の”Nature”誌には“日本の科学はもはや壊滅する(した)”とあります。



さて、結局は研究所解体になりまして、私の場合は「技術評価ができて、英語の読み書きもできるらしい」ということから、その企業の本社へ異動になりました。外国の技術を評価して、技術導入するのが業務になり、欧米はもちろん、旧敵国ソビエト連邦にまで出かけました。この間に米国人プロのお世話になりました、こういう人が私の(上司ではない指導者の)メンターです。

この企業を退任したあとはいくつかの企業の顧問を勤めましたが、この期間の仕事においては、相手が人であろうとモノであろうと「間合いをはかる」、さらに「見切る」ことの重要さに気が付きました。

ところで、漸く時間に余裕があるようになり、たまたまご近所に高齢者や何かと不具合の方がおられたことから福祉に関心を持つようになりました。「今日も昨日も他人と話をしたことが無い」方々です。

先を急ぎまして話は変わりますが、気になる不思議なことが次々と出てきます。大腸菌の雄雌、手長猿夫婦の二重唱、マンモスの肩甲骨で墓を囲ったネアンデルタール人のことなどの必然性と合理性です。

しかし、ただ今はほんの身近に最も大事な人がいる不思議さと有難さを想うことこの上もありません。

おわり



編集後記

松田 美幸

今回、クリップ通信に原稿をお願いしました滝乃川学園成人部の明田様と評価者の猪居様にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

明田様、今回原稿作成の依頼を心よくお引き受け頂き、有難うございました。長いお付き合いとは言え、クリップの評価を理解して下さる事業所は多くはありません。林社長の考えにご賛同頂き、また、何とも言い難い魅力を感じて頂いていること、「成熟度」や「良い支援」の「良さ」について触れ、組織を生まれ変わらせたことへの思いに、勇気と喜びが湧いてきたと共に、深みのある文に学びを頂きました。

猪居様には研究内容を原稿にして頂こうと計画をしておりましたが、ふといつも穏やかで、お会いすると楽しく興味深いお話を下さる猪居さんの「人生」や「日々、どのような事をお考えになられているのか」を知りたく、「ヒト・猪居さんの人生」というお題で原稿をお願いしてしまいました。原稿を読ませて頂き、猪居様の人生をクリップ通信の原稿にまとめて頂いた事を後悔しました。1冊の本に出来る程の内容を端的にまとめて頂き、もっと深くお話を伺いたいと思う事ばかりで、人生経験の深さを改めて感じさせていただきました。また、最後の1文に猪居さんの奥様に対する愛と感謝の思いが込められている事に感動をしました。

クリップは素晴らしい、お客様と評価者にご縁を頂いております。今後も、皆さまと共に「共に歩み、共に進む」のクリップの理念の基、邁進してまいります。

